令和四年度
座間市福祉推進作文・標語
入賞作品集

令和四年度座間市福祉推進作文・標語入賞作品集

目次

福祉推進作文

【小学校３・４年生の部　最優秀賞】

体が不自由なダンスチーム

相模が丘小学校４年　片岡　瑚音羽 …… 2

【小学校５・６年生の部　最優秀賞】

私のあこがれの人

ひばりが丘小学校５年　中川　遥 …… 3

【中学生の部　最優秀賞】

心の福祉

相模中学校１年　島田　珠莉 …… 5

【小学校３・４年生の部　優秀賞】

しょうがいはあるけど、想いは同じ

座間小学校４年　瀬戸　悠月 …… 8

ヘアドネーション

相武台東小学校４年　石川　彩花 …… 9

【小学校５・６年生の部　優秀賞】

福祉について

相武台東小学校６年　佐々木　晴樹 …… 10

学校でのバリアフリーについて

東原小学校６年　中村　竜也 …… 12

【中学生の部　優秀賞】

輝く未来のために、今できること

西中学校１年　宮﨑　彩実 …… 13

【小学校３・４年生の部　佳作】

小さなことだけど・・・

相武台東小学校４年　井川　つくし……16

デフサッカーって何？

ひばりが丘小学校３年　西川　千暁……17

耳の聞こえない人に手話を

ひばりが丘小学校４年　井上　一輝……18

べんりな車いす

中原小学校４年　岩本　凌空……19

【小学校５・６年生の部　佳作】

四年前のわたし

相模野小学校５年　髙橋　咲希……20

ヘアドネーションとの出会い

相模が丘小学校５年　新見　多恵……22

祖父と祖母のお手伝い

相模が丘小学校６年　安齋　優衣……23

全ての人が平等に生きれるように

入谷小学校６年　久保　維春……24

【中学生の部　佳作】

福祉って何だろう。

座間中学校１年　根本　陽史……25

どんな人でも使いやすい

西中学校１年　石原　美咲……28

親切

西中学校１年　関口　眞帆……32

公平と優先席

東中学校２年　渡部　葵……35

身近な福祉
相模中学校１年　東　桃代……37
祖父と白杖
相模中学校１年　福田　優衣……39

福祉推進標語

【最優秀賞】

手を　どうぞ　この一言に　励まされ
入谷東在住　山下　孝雄……43

【優秀賞】

思いやり　心の壁を　超えていけ
東中学校３年　若林　知暉……43
ひと声かけて　寄り添えば　街のみんなが　見守り隊
新田宿在住　岩堀　多起子……43

【佳作】

手だすけは　人びとをむすぶ　小さなわ
座間小学校３年　亀井　寛太……43
寄り添って　気づけば広がる　笑顔の輪
西中学校１年　男庭　伶……43
「ありがとう」の一言　福祉の　第一歩
東原在住　青木　暁子……43
自分から　声かけ　ほほえみ　思いやり
緑ケ丘在住　宮﨑　加奈子……43

※　敬称略

本文中の表記については、原文を尊重しています。

福祉推進作文

【小学校３・４年生の部　最優秀賞】

体が不自由なダンスチーム

相模が丘小学校４年　片岡　瑚音羽

私は、先日テレビでダンスバトルの番組を見ました。九百いじょうのチームの中から選ばれた、十六チームが一位を目指す番組です。その中で、気になったのが目や耳が不自由な人たちのダンスです。なぜなら、私もダンスをやっているので気になりました。私がふだんダンスをしている時は、目で先生の動きをまねすることもむずかしいですが、目の不自由な人は位置も分かりません。そして、先生のダンスも見ることができません。

耳が不自由な人は音楽にのったり、全部手話でやったり、色々大変です。なのに、テレビで見たダンスは、みんないきがそろっていてかっこよかったです。

私が一番おどろいたのは、ハンディー関係なく決勝に進んでいたことです。

私は、体が不自由な人の全ての気持ちではないけれど、少しだけあじわってみたいので、考えました。目が不自由な人を体験するには、目隠しをしてみたり、耳が不自由な人を体験するには耳せんをしておどったりしてみたいです。

体が不自由な人たちを幸せにするには、みんなとちがうから仲間はずれとかにするのではなく、考え方を変えてみんなとちがうからいいと考えればいいと思いました。

【小学校５・６年生の部　最優秀賞】

私のあこがれの人

ひばりが丘小学校５年　中川　遥

学校から帰り、いつものように友達と公園で遊んでいると、たまにボランティアでごみひろいをしに来てくださる方たちが通りかかります。その中に、右うでを失っている人がいるのを見かけます。

その人はかたほうのうでが無いにもかかわらず、市のためにごみひろいなどの美化活動をしていて、すごいなあと思います。自分のことだけでも不自由な事がいろいろあるだろうと思うのに、町をきれいにしたり、ボランティアに参加したりして、やさしいなあ、とても思いやりのある人なんだなあ、そう思える、私のあこがれの人です。

かたうでがないというのは、生まれつきや、事故や病気によって切断せざるをえないなど、人それぞれの事情があると思います。

以前、兄が手首をこっせつした事がありました。治るまで一か月かかりました。その間、学校のじゅぎょうや宿題などで字を書く時、食事をする時、お風呂など、いろいろな事に時間がかかり、不自由で大変そうでした。ふだん、何気なく行っている着がえや食事は、健康な体があるからこそだと思いました。

お風呂だけで考えても、服をぬぐのも、シャンプーをするのも、かたうでだけではどうしたらいいのか分かりません。ボディソープの容器をプッシュしながらタオルにあわを出すのも、いつも両手が必要です。きっといろいろ考え

ながら工夫したり、失敗をくり返しながらいい方法にたどりついたのかなあと思いました。

　今まで、まわりの人たちの優しさや手助けもたくさんあっただろうと思いますが、ぎゃくにがまんしなければならない事や、いやな気持ちになる事もあったんだろうなと思います。いつかあの方が、不便な事なく、いつまでも自由で楽しい生活を送る事ができたらいいな、私はそう願っています。

【中学生の部　最優秀賞】

心の福祉

相模中学校Ｉ年　島田　珠莉

「ありがとう、いえばいうほど、うれしくなる」
この言葉は私が多分三年生の時に考えた言葉です。当時の私はまだ福祉のことは全然知らなくて、車イスや点字ブロックなど、障害をもっている人を手助けするために使うものだけを福祉だと思っていました。けれど授業を終えて福祉のことを学ぶと、赤ちゃんから大人まですべての世代の人に関係し、もちろん私にも関係しているということが分かりました。そして人々が安心安全にすごすために、必要不可欠だということも分かり、授業を通してこの言葉を生み出しました。選ばれはしなかったけど、自分の中ではすごい上出来だと思っていたのでずっと心に残り続け、今でも大切にしています。

「ありがとう」はだれに言われてもいつ言われてもどれだけ言われてもとてもうれしいです。だれかの役に立ったと思うと心のおくがポカポカとあたたかい気持ちになります。ごめんねと言われるよりありがとうと言ってもらった方がいいですよね。もし友達がミスをおかしてしまい私が手伝いをしたとします。その時友達に
「私のせいでめいわくをかけてごめん」
と言われるよりも
「私のために本当にありがとう、これからは気をつけるね」
と言われた方が私的には返事も返しやすいし、それだけで満足できます。あやまってほしいのではなくて、私がした

くてしたことだからやっぱり「ありがとう」が一番です。
　私はごめんを少しひねって相手も自分も、不快にならないようにありがとうにするように心がけています。例えば
「いつもわがままを言ってごめん」
ではなく、
「わがままばかり言う私のそばにいてくれてありがとう、これからもよろしくね」
のようにしています。だけど遊びにさそってもらったのにドタキャンしてしまった時などにあやまらないのはおかしいので
「明日行けなくなっちゃった。本当にごめんさそってくれてありがとう、また来週とかに遊ぼう」
とあやまった後にありがとうと言うなどと、工夫していきたいです。
　ありがとうを言うとストレスや嫉妬心が減ったり、ポジティブになれ良い人間関係が築け親切になれます、そして小さな出来事でもよろこべるようになり幸福になれるという、ニュースを見たことがあります。ありがとうと言うとこのような良いことが起こるそうです。いい事がいっぱいです。
　ありがとうと言える人は心が健康な人です。心が追い詰められてしまうと、自分の言葉を深く考えてしまいますよね。今ここで発言してまちがったらどうしようや今私が話して空気が悪くならないかなと少なくとも私はそう考えてしまいます。そのような状態になってしまうと、人の気持ちのことまで気がまわらなくなってしまいます。なので日常的にありがとうと言えている人を見ると素敵なんだなと思います。

ありがとうはまほうの言葉です。言うだけでまわりが笑顔になり、もちろん自分も笑顔になれます。なので物理的にも、精神的にもいいことが沢山あります。なので心の福祉としてみんなに言ってもらいたいです。そしてありがとうを増やして笑顔も色んな所に増やしたいです。

【小学校３・４年生の部　優秀賞】

しょうがいはあるけど、想いは同じ

座間小学校４年　瀬戸　悠月

私には、知的しょうがいのあるお兄ちゃんがいます。お兄ちゃんは、自分が思ったことをうまく伝えられません。

私のお兄ちゃんは、知的しょうがいがあるけれど、想いがあります。私がないている時、ティッシュを持ってきて、なみだをふいてくれます。家族で、ごはんを食べている時に、

「これも食べて。」

と言って、私の方に、すすめてきたり、朝、私が学校へ行く時に、くつをならべてくれたりします。知的しょうがいはあるけれど、想いのある、とてもやさしいお兄ちゃんです。だから、私はお兄ちゃんとすごす毎日が楽しいです。

私は、だいたいだけれど、お兄ちゃんの言っている言葉が分かります。お兄ちゃんの伝えたいことを理解して、まわりの人に伝えていきたいです。そして、お兄ちゃんがいろんな人と安心してお話できるようになると私はうれしいです。

【小学校３・４年生の部　優秀賞】

ヘアドネーション

相武台東小学校４年　石川　彩花

まず、ヘアドネーションを知ったのは、新聞にのっていた時に教えてもらったからです。

ヘアドネーションとは、病気やけがでかみの毛がぬけてしまった人のために、切ったかみの毛をきふして役に立ててもらうことです。

その、ヘアードネーションをしました。

保育園の時からのばして、おしりまで長くなったかみの毛を、小学二年生の二月に切りました。ヘアードネーションをすると決めてからも、と中で何回も切っしまおうかと思いました。それは、洗ったりかわかしたり、むすんでもらうのが時間がかかって大へんだったからです。

でも、前にかみの毛を切りに行った時にかみの毛をほめてもらったことを思いだして、切るのをガマンしました。切る時は、きんちょうしてドキドキしました。でもワクワクもありました。それは、

「わたしのかみの毛が役に立つんだなぁ。」

と思ったからです。

今は、良かったと思います。いつもならゴミになってしまう物が、ゴミにならず役に立ててもらうことができたからです。

わたしは、今かみの毛をのばしています。ひつような長さになったら、またヘアドネーションをします。ケガや病気でこまっている人達の役に立ちたいと思います。

【小学校５・６年生の部　優秀賞】

福祉について

相武台東小学校６年　佐々木　晴樹

ぼくはまず福祉について調べてみました。福祉とは幸せやゆたかさで人の幸せ、なるべく不自由なく生活できるための事だという事が分かりました。

ぼくのお兄ちゃんは、産まれつき両目が見えにくい弱視の障がいがあります。

お兄ちゃんがどんな福祉を利用してきたかを聞いてみました。

保育園の時は加配といってサポートをしてくれる補助の先生をつけてもらうことが出来て他の子達と一しょに楽しく過ごす事が出来たそうです。

相武台東小学校、座間中学校では支援級の弱視級を作ってもらいフォローをしてもらいみんなと同じ生活を送ることが出来ました。お母さんは、小学校に入る時にいじめなどにあわないかとても心配だったそうですがまったくそんな事はなくすごくみんなやさしかったそうです。

先生からお母さんが聞いた話ですが、小学校の修学旅行の時に友達が険しい道を歩く時がありその時に、友達からお兄ちゃんの手をとって助けてくれながら歩いてくれたそうです。お母さんはその話しを聞いてありがたいなと思ったと言っていました。

ぼくはこの話を聞いて、一人一人の行動が相手にとってはすごくありがたいという事を感じました。このような気持ちが福祉につながっていくのではないかと思いました。

自分も障がいのある人の気持ちになり相手の気持ちを考え助け合うことが大切だと思いました。

【小学校５・６年生の部　優秀賞】

学校でのバリアフリーについて

東原小学校６年　中村　竜也

ぼくがこのテーマを選んだ理由は昨年、弟が足の骨折をして松葉杖で生活することが多くなりました。その中で困ったことや、こうしてほしいなーという事があったので、その事について書きたいと思って選びました。

まず、その「困った事」は朝学校に登校した時に教室まで向かうのが大変という事です。昨年は教室が三階にあったので、階段を登るきょりがけっこうありました。弟はケンケンで階段を上がることができなかったので、親がおんぶして階段を上がっていました。

下りの時も親がおんぶしたりして大変でした。そんな時にエレベーターやスロープがあったら便利だと思いました。

例えば、さがみの駅には、スロープが各場所に設置されていたり、エレベーターがあったりして障がい者への気づかいがされています。これは障がい者だけでなく、ケガをした人にも便利なことだと思います。けがは誰でもする可能性があるので、このようなものがあったら便利だと思いました。

東原小学校にスロープやエレベーターが設置されたら、児童だけでなく、授業参観に今まで来られなかったおじいちゃんおばあちゃん、体の不自由な家族、小さな子供も学校へ来やすくなるかもしれません。

そして、「学校でのバリアフリー」を実現させたら、みんなのためのよりよい学校になると思いました。

【中学生の部　優秀賞】

輝く未来のために、今できること

西中学校１年　宮﨑　彩実

「障がいのある人には優しくする」、私は今までそう思って毎日過ごしていました。道に障がいのある人がいたら、気にかけて接する、それが当たり前だと思っていました。でもその考え方は、少し間違っていると気付かせてくれたのが夏に開催された、「２０２０東京パラリンピック」でした。

「パラリンピック」、聞いたことはあるけど、じっくり見たことはない。そういう人は、多いのではないでしょうか。私もそのうちの一人です。パラリンピックというのは、身体に障害を持つアスリートが戦い合う、もうひとつのオリンピックといわれています。私は今回、始めてパラリンピックをじっくりと見ました。競技は、男子車いすバスケットボール。いざ見てみると、車いす同士で激しくぶつかり合い、時にはころんでいる選手もいました。それでもまた立ち上がり試合に戻る。私は、この試合を見ているとき、「障がい」のことなど忘れていました。おそらく選手も同じように障がいのあるバスケットボール選手ではなく一人のバスケットボール選手として、試合をしているのだと感じました。試合結果は６０対６４。負けてしまったが、銀メダルに輝きました。私は、勝ち負け関係なしにとてもかっこ良いなと思いました。どんな障害があったとしても、このように、一人ひとりが輝ける場があること、それは、どんな時代であっても大切なことだと思います。私は、パ

ラリンピックを見て、たくさんの感動や明日へのエネルギーをもらいました。この気持ちを、誰かに伝えることは難しいかもしれません。ですが、私はこの気持ちを少しでも多くの人に味わってほしいです。そうすることで、障がいの方に目を向ける人が増え、全ての人が幸せに暮らせるような明るい未来につながっていけると思います。

このように、自分が障がいをもっていたとしても、懸命に努力して頑張っている人が世界にはたくさんいると思います。そのような中で私は、「障がいのある人には優しくする」と考えたこと自体が相手を差別していることになっていると気付きました。もちろん、困っていたら助けることはとても良いことだし、誇りに思えることです。ですが、障がいのある人だからといって、何も出来ないということはないと思います。自分のできる限りのことで、ものすごく頑張っている人。それは、障がいのことなど関係なく私はとても尊敬します。人と多少の違いはあろうとも、私たちはみんな人間です。お互いによりそい合って助けあって、違いを認め合うからこその成り立っている社会です。それが一つでもくずれると、みんなが幸せに暮らせるような社会にはならないと私は思います。一人が一人を思う。その一人がまた違う一人を思う。この輪が広がってみんながみんなを思う世界に進歩していけば、だれも苦ではない世界になると思います。

私は、障がいのある方の気持ちは分かりません。辛さも痛みも怖さもその人にしか分からないと思います。ですが、分からないからこそ、できることがあると思います。相手を思う気持ち、それはとても大事です。ですが思っているだけでは、何も変わりません。その気持ちがあるのなら行

動に移すことで、大きな世界が小さく一歩前進します。大きく前進するには、どんなに小さな気持ちでもいいので、その気持ちを多くの人に持ってもらうことが明日への大きな一歩につながると思います。

私は、このことを学んで、町で障がいのある方を見かけたら、すぐに助けるのではなく今回考えたことを思い出して行動したいです。みなさんも、そのような場にいるときは、一度立ち止まって考えてほしいです。それは、本当に相手を思ってしている行動なのか、それをして相手はどう思うのか、もう一度考えてほしいです。そしたら、答えはきっと見えてくるはずです。そうして、だれもが幸せに暮らせる明るい輝く未来がやってくると思います。

【小学校３・４年生の部　佳作】

小さなことだけど・・・

相武台東小学校４年　井川　つくし

休みの日に、お母さんとスーパーへ買い物をしに行った時、八十才ぐらいのおばあさんがいました。そのおばあさんは、買い物をした荷物をたくさん持ったままカートをかたづけようとしていました。荷物が重そうで、大へんそうでした。お母さんが「てつだってあげたら？」と私に言いました。私はおばあさんに近づいて、「持ちましょうか？」と言って荷物を持ってあげようとしました。その時お母さんが「荷物じゃなくてカートだよ。」と言ったのでカートを持ってかたづけてあげました。おばあさんはきゅうに声をかけられたので少しおどろいていましたが「ありがとう」と言ってくれました。私はうれしくなって、人を助けをすることはいいことだと思いました。

今ふりかえると、カートではなくて、荷物を持ってあげてもよかったのかもしれないと思いました。そこで、お母さんと話しあってみました。お母さんが、カートにした理由は荷物に大切な物が入っているかもしれないからです。ただ重い荷物を持ってあげればいいと思っていました。

相手のことを考えて声をかけるのはむずかしいけれど、こまっている人がいたら小さなことでも声をかけて助けてあげようと思います。

【小学校３・４年生の部　佳作】

デフサッカーって何？

ひばりが丘小学校３年　西川　千暁

わたしは、耳がきこえない人たちがサッカーをしているのを、ニュースで見ました。自分もサッカーをしているから、きょうみをもちました。

目が見えない人たちがやるサッカーの名前は、「ブラインドサッカー」です。そのきょうぎは、東京パラリンピックのきょうぎになっていたので、しっている人も多いと思います。そして、耳がきこえない人がやるサッカーの名前は、「デフサッカー」と言います。ルールは、ふつうのサッカーとほとんど同じです。ちがうところは、しんぱんのふえの音がきこえないので、はたもどうじにふって、しらせます。せんしゅどうしは、手話で話し合います。せんしゅたちは耳がきこえないぶん、なかまの手話や、しんぱんのはたを見なければいけないので、たいへんだと思いました。でもせんしゅたちは耳がきこえない人どうしであつまれることや、すきなスポーツができることが楽しいと言っていました。

しょうがいのある人たちのためのスポーツがあるから、しょうがいがある人でも楽しめると知りました。もっともっと、しょうがいがある人のためのスポーツや、そのスポーツのチームがふえていけば、だれもがしあわせになれると思いました。わたしは、そういうスポーツをやったことがないので、いつかやってみたいです。

【小学校３・４年生の部　佳作】

耳の聞こえない人に手話を

ひばりが丘小学校４年　井上　一輝

ぼくは、３年生のころに、手話を学校で習いました。少しむずかしかったけれど、がんばって練習したらできて、とってもうれしかったです。それで、耳のきこえない人に手話でかい話ができると思い、もっと家でたくさんいろいろな手話の手の形とか、おぼえました。

とくに、コロナがまだおさまっていないので、あまりマスクをとって、きゅう食中に、口で話したりしゃべれないので、手話をしたりとかしてできるので、すごくべんりです。

おじいちゃんやおばあちゃんとかに、手話でかい話をしたり、友だちにも手話でかい話をしたいです。コロナがおちついたら、おじいちゃんの家やおばあちゃんの家に行って、手話ができるのを見せたいです。耳のきこえない人に手話をしたら、その相手もうれしくなれると思いました。また、いろいろな人と、手話で楽しく、かい話をしていきたいです。

作文を書いていたらぼくは手話でかい話をもう一回やってみたりとかして練習をしたり、３年生でやった手話や思い出が頭中にいっぱいうかびました。また、みんなでいっしょに手話をやりたいです。

【小学校３・４年生の部　佳作】

べんりな車いす

中原小学校４年　岩本　凌空

「どんな物が出てくるかな。」
ぼくは、車いすのスライドを作っています。みんな、車いすをきたいしていないけど、ぼくはきたいしています。なぜなら、車いすを作っている人は、何か不自由な人のためにべんりな車いすを作っているからです。

スライドを作っているときにおもしろそうなしゅるいを見つけました。リクライニング、ティルトタイプです。どんな事が出来る車いすなのか気になって、くわしく調べてみました。なんと、この車いすは色いろな部分をまげられるべんりな車いすでした。
「こんなにべんりな車いす、何で知らなかったんだろう？」と、知らなかった自分がふしぎに思いました。まげられる車いすなんて知らなかったので、今では車いすにもっときょうみを持つようになりました。

車いすはこまっている人のために、色いろな事が出来るべんりな車いすを作っているがんばりがとてもつたわってきました。ぼくは、こまっている不自由な人のために、べんりな車いすを作りたいなと思ったし、不自由な人がいたら、これから協力してあげたいなと思いました。

【小学校５・６年生の部　佳作】

四年前のわたし

相模野小学校５年　髙橋　咲希

一年生の時、私を変える出来事がおこった。ある日、休み時間で友達と遊んでいたとき、私は石につまずいていきおいよくころんでしまった。今までで感じたことのない、もうれつないたみが私をおそった。次の日、病院に家族で行った。まだジンジンといたむ私の左足に、病院の先生がグルグルと包帯をまきつけた。気がついたら私はまつばつえで歩いていた。まつばつえの生活は、とても不便だった。外にいけば、いろいろな人がジロジロ見てくるし、かいだんをとおることがとてもむずかしい。でも、悪い事だらけではなかった。いろんな人のやさしさに気づいた。それはとてもいいことだったと今も思っている。まず一番に感じた人は、家族だった。２かいのベットでねる時、だっこしてかいだんを上ったり、下りたりしてくれた。また、学校に自転車で送ってくれたり、家につれてってくれたりした。うれしかった。次に感じとったのは、学校の友達や先生だった。まつばつえになって初めて学校に行く時、「どんな風に見られるんだろう。」、「どういうこといわれるんだろう。」と、とても不安だった。でも友達からうけた言葉は、「大丈夫？」、「手伝ってあげようか？」とあたたかいものだった。あたたかい言葉により、私の不安な心もなくなって、安心して学校に行けるようになった。

あの出来事から四年、私は変わった気がする。まつばつえや、しょうがいを持っている人に声をかけるのがなかな

かむずかしかったけれど、今はちがう。しょうがいを持っている人に声をかけたり、しょうがいを持っていない人でもこまっていたりしたら声をかけている。助けてもらった人は、心があたたかくなる。助けた人も、心があたたかくなる。だから、わたしは声かけをずっと続けていきたいと思う。

【小学校５・６年生の部　佳作】

ヘアドネーションとの出会い

相模が丘小学校５年　新見　多恵

わたしが３・４年生ぐらいの時だった。ある動画配信サイトを見ていると、たまたま「ヘアドネーション」という言葉が入っている動画を見つけた。この時わたしはヘアドネーションについて、すぐに知りたかったため、すぐ調べた。

調べて分かった事は、「ヘアドネーションはその名の通り、かみを寄付すること」であり、「その寄付するかみは３１センチ以上なくてはならない」事だった。でもわたしは「どんな人にかみを寄付するのだろう？」というぎ問がまだあった。もう１度、調べてみると「病気の薬の副作用・または病気そのものなどでかみの毛がぬけてしまう人」などに寄付をしている事が分かった。「それならわたしもやってみたい！」と思い、お母さんに「こういう活動してるみたいだからちょっとやってみたいんだ！」と伝えると「いいね」とさんせいしてくれた。でも期間に対しても、かみの長さに対しても長く続けるのは少し大変だが「だれかの役にたてる」と思えば、ずっと続けられる気がする。

それから１・２年たった今でもわたしは日々、かみを伸ばし続けている。５年生の１学期が終わったころか、２学期の始めごろに切る事を考えている。みなさんも、ヘアドネーションにかぎらず、小さな事でも、だれかの役にたてる事・活動などをしてみてはどうだろうか。

【小学校５・６年生の部　佳作】

祖父と祖母のお手伝い

相模が丘小学校６年　安齋　優衣

私の祖父は車イスに乗っています。普段祖父と暮らしている祖母は、祖父を寝かせるなど、いろいろなお世話で大変そうでした。

ある時、弟の幼ち園のイベントで祖母が私の家に来たとき、私の母が祖母に、

「お父さんはどうしたの？」

ときいた後、祖母が

「今日は、老人ホームにあずけてきたよ。」

と笑顔で答えていたことが印象に残りました。

私はこの出来事から、祖父母のことを支えてくれている老人ホームの方々にとても感心しました。なぜなら、老人ホームがなければ祖母が出かけるときに祖父が一人で家にいなくてはならなくなったり、祖母が出かけられなくなったり、一緒に出かけたりするかもしれなかったからです。が、私は祖父も祖母も私の家に来てもらいたかったというのが本心です。しかし、祖父母の家と私の家は遠いので、そのようなことは難しいと思います。だからこそ、親の実家に帰省したときにはたくさん祖父母と話したり、遊んだりしたいです。

私は老人ホームに感心したものの、人のお世話がそこまで得意ではないので老人ホームで働くことはできません。ですが、親の実家に帰省したときには祖父や祖母の手伝いをできる限りしたいと思いました。

【小学校５・６年生の部　佳作】

全ての人が平等に生きれるように

入谷小学校６年　久保　維春

ぼくの弟は、発達障害です。しゃべれなかったり、自分の気持ちをコントロール出来なかったりしてお母さんなども大変そうです。弟は特別支援学校に通っていてその後に一時預かり施設に行っています。

ある日公園に行ったら弟がさけんだり座りこんだりして後ろの人に迷惑を掛けてしまって冷たい視線で見られたと思いましたが、
後ろの人達が、
「元気で活発だね。」とささやいてくれたのです。しかし世の中はそんなにやさしい人だけではないですよね。電車やショッピング施設などで弟が興奮してさけんでしまった時は冷たい視線で見られてるかもしれないし、弟だけでなく、生後まもない赤ちゃんが泣いていたり、幼稚園に通っているくらいの幼い子などが、さけんでいても冷たい視線で見ている人がいるかも・・・・・・そこで子連れ専用のショッピングモールや、子連れ専用の号車がある電車があればいいなと思いました。

そして、耳が少しきこえずらい人などが、会社などで採用されにくいという不平等な世界が変わっていってほしいと思いました。

そんな、世界が変わるためにたとえ障害がある人がいても、差別しないことがぼくに出来ると思いました。

【中学生の部　佳作】

福祉って何だろう。

座間中学校Ｉ年　根本　陽史

「福祉って何だろう？。」

みなさんは、そう問われてどのような答えが出たであろうか。もちろん、お年寄りの介護、バリアフリー化、「障害をもっている人も困難なく暮せるようにする。」、平和、全て正解である。世の中には多種多様に答えが存在するが、その中でも私は、福祉の理念をだれもが不自由なく暮らせて、みんなが幸せでいられることだと考える。実際に辞書には、「生活の安定や充足。」また、「生活の安定や充足。また、人々の幸福で安定した生活を公的に達成しようとすること。」と書いてある。では、人々の幸福で安定した生活はどのように作られどのように達成していくのであろうか。そのことについて深く実感した体験がある。

昨年の十二月、僕は足を怪我してしまった。その時に思ったことは今でも忘れられない。

私は足を怪我していたため、階段を上り下りすることや歩くこと、病院にいくことすらも困難で一人では何もすることができなかった。幸いにも助けてくれる友達や家族はいたのだが「他人に迷惑をかけないように。」などと気を遣ってしまうのが人としての心理であり、私も気を遣ってしまった。申しわけなく助けを求めづらい気持ちになるのだ。また、長期になると助けてくれる人も疲れてしまうのも問題である。こうしたことを解決するために市役所で相談できる窓口がある。公共交通機関を移動に使うことだっ

てできる。最近ではインターネットを使って買い物することも可能である。私も移動に車やタクシー、電車を使っていた。車で送ってもらえるだけでとても楽だったのを覚えている。このように福祉問題を考える方法は豊富にあるのだからその方法を年れい、性別、職業問わずに使えるようにすることまでが福祉だと思う。

私は怪我の体験をへて福祉の制度を必要とする人が、周囲に助けを求めるのが大変かを身にしみて感じ、今まで軽はずみな気持ちでいた私は顔が赤くなるほど恥ずかしかった。また、周囲の人の温かい声と行動がどれだけ支えになるかを知った。だから僕は周囲に助けを求めている人がいたら声をかけようと思うきっかけになった体験だった。

自身の体験から、体が思うように動きにくい高れい者のことが気になったので考えてみた。現在、日本には、約三千六百四十万人もの高れい者がいる。その人たちの多くが公共交通機関が使いにくく、相手の話す速度が速いなどでコミュニケーションを取りづらいなどと思っていることが分かっている。これから日本は少子高れい化が類もみない速度で進んでいくと推測されている。だから、高れい者も楽しく生き生きと働ける職場環境とバリアフリー化をすることで経済を支えることができる。バリアフリー化が進んでいる地域もあるが、地方では進んでいないのが現実だ。地方でもバリアフリー化を進めるために、アイディアと最新技術をもっている若者手を取り合ってほしい。互いの問題を理解しながら現代の技術を応用することが皆の幸せにつながると私は考える。

日本には福祉について様々な問題が存在する。だからこそだれかのために役に立つことに喜びを感じられる若者で

あり、人々に笑顔を届ける存在でありたい。また、困難なことがあろうとも努力して解決策を見つける、人々を助ける存在になるのも若者の役目ではないだろうか。「そんなことできない。」と思っている若者でも助けを求めていそうな人に「大丈夫ですか。」と声をかけるだけでも福祉になる。だから身近ことから行動しようと意識してもらいたいし、そういう人間で僕もありたい。

【中学生の部　佳作】

どんな人でも使いやすい

西中学校１年　石原　美咲

「全ての人の幸せ・豊かさのこと。」
それが福祉の本当の意味だと知った時は、とてもおどろきました。なぜなら、私が今まで考えていた、
「福祉は障がい者や高齢者のためだけのもの。」ということが間違っていたからです。

このことを知り、福祉が障がい者や高齢者以外の人のためにもあるのだと分かり、きっとまだ私の知らないことや、あるいは私が思っていたものとは違った福祉があるのではないかと考え、調べてみることにしました。

私が一番最初に福祉で思い浮かんだのは、
「ユニバーサルデザイン」
でした。身近なユニバーサルデザインについて、調べて分かったことが二つあります。

一つ目は、ユニバーサルデザインは、バリアフリーとは異なるということです。

ユニバーサルデザインは、文化や年齢、性別、能力などに関わらず、できるだけ多くの人が利用できることを目指した設計、プロセス（過程）で、始めからどんな人でも使いやすいように作られています。

それと対象的に、バリアフリーは、障がい者や高齢者を対象にしていて、もとからあるものを変えたり、取り除いたりして作られています。

ユニバーサルデザインとバリアフリーは、意味は同じに

思われやすいですが、仕組みは違うのだと調べて分かりました。
　そして二つ目は、ユニバーサルデザインは、教科書などに使われている、
「カラーユニバーサルデザイン」
だけでなく、建築や製品（衣服、商品）などにも使われているものがあるということです。
　具体的には、シャワートイレやレバー式のハンドル、幅の広い改札などがあります。
　また、古くからあるユニバーサルデザインもあります。
　例えば、着物や浴衣です。着物や浴衣は柔軟性があり、着た人に合うようなつくりになっています。
　日本の伝統的な物のなかには、古くからユニバーサルデザインを取り入れていたものもあり、昔も沢山の人が使いやすいように努力していたのだなと思いました。
　ユニバーサルデザインには、沢山の種類がありますが、調べてみて私が気になったのは左利きの人を対象にしたユニバーサルデザインです。左利きの人は日本人の約10%、世界で7.5%といわれていて、日常生活のなかで使いづらさを感じることが多いそうです。日本そして世界は右利き中心の社会なので、左利きの人には不便なことも多く、ハサミやカッター、定規など私達がよく使う道具でも、
「深く考えずに買ったものが右利き用で、とても使いづらかった」
などのことが起こります。なので、左利きの人は買い物をする時、それが左利き用かを常に確認して買わなければなりません。それを解消するのに、ユニバーサルデザインが

深く関わるというのです。
　ユニバーサルデザインが普及し始めた最近では、少しずつ左利き用のものも増えました。これは、少し前にニュースで見たことなのですが、
「左利きの人でも使える文房具を取り揃えている文房具店」
が特集されていて、まだあまり知られていない沢山のユニバーサルデザインの文房具がありました。その中でも、特に私の印象に残ったのは、
「数学が四つ角に書いてあるトランプ」
です。左利きの人は、普通のトランプを使うとき、カードの数字が見えにくく、使いづらいそうです。それを解消したのが、数字が四つ角に書いてあるトランプです。これなら、右利きの人も左利きの人も使うことができ、ユニバーサルデザインになっています。
　このように、少し工夫をすることで、どんな人でも使いやすいものになるのは、ユニバーサルデザインのとても良いところだと思いました。
　そして、ユニバーサルデザインはSDGｓにも関わりがあります。主に関わっているのは、
「人や国の不平等を無くそう。」
「住み続けられるまちづくりを。」
「質の高い教育をみんなに。」
という三つの目標です。最近注目されているSDGｓですが、これもユニバーサルデザインの内容が含まれているのだと思い、目標は同じなのだと思いました。
　今回調べてみて、ユニバーサルデザインは限られた人のためだけではなく、全ての人のため、自分のためにもなる

ということが分かりました。
　このような人の幸せを支えるユニバーサルデザインを、世界でもっと広げていってほしいと思いました。

【中学生の部　佳作】

親切

西中学校１年　関口　眞帆

みなさんは、「親切」というものについて本当に深く考えた事はありますか？

私は、親切というのは心の中で心配したりするのではなく、行動に移さないと伝わらないものだと考えています。

「人助けランキング」という資料を見ると、世界の国114ヵ国のうち、日本はダントツの最下位でした。この結果に、私は非常に驚きました。なぜかと言うと、昨年の夏の東京オリンピック・パラリンピックの際の日本人ボランティアが、世界中で高い評価を受けていたので、世界的にも日本人というのは親切な国民なのだろうと思っていたからです。その評価を知らない時の私自身の感覚でも、日本人は礼儀正しく親切な国民性という一般的に言われている事に違和感はありませんでした。

「では、なぜ最下位なのだろう？」

あくまでも自己申告に基づくランキングなので、日本人の謙そんする気質もあると思いますが、本当に日本人は親切に人助けが出来ていないのか原因を調べると、日本人の恥ずかしがりなところが影響しているようです。そこから考えると、日本人に親切な感情を持っている人は多いけれど、それを行動に移すことが苦手な人が多いというように考えられます。

このようなことに関連付けて、電車やバスなど公共の交通機関で席をゆずるという事について深く考えてみようと

思います。
　みなさんは、自然に席をゆずる事が出来ますか？私にとっては、とても勇気のいる事です。親切な良い事のはずなのに、どうして勇気が必要なのでしょうか。そこで考えてみると、自分をふくめ日本人というのは周りの目を気にしてしまい、目立ちたくないという気持ちの強い人が多いのだと考えられます。さらに、
「断わられたらかっこ悪い」
「ゆずろうとする事で相手が嫌な気持ちにならないか」
と、深く考えすぎて、自然に席をゆずる事が出来なくなってしまうのではないかとも思います。実際、相手の人が妊婦さんなのかそれとも太っているだけなのか、このコロナ禍のだれもがマスクをしている状況では本当にお年寄りなのかなども分かりづらく、なおさら席をゆずる事に勇気が必要になってしまいます。
　そんな日本には、一般的に優先席があります。みなさんもご存知の通りお年寄りや怪我をしている人、妊婦さん、小さな子供を連れている人などゆれるバス、電車内で立っている事が難しい人が優先的に座れる席のことです。
　優先席というのは体の不自由な人が優先とされていますが、日本では元気な人も普通に使用しています。その原因は、「優先席」という弱い意味だからかもしれません。韓国にも優先席はあります。しかし、韓国の優先席は「ノヤッチャソッ」と呼ばれています。「お年寄りと体の不自由な人限定」という強い意味があり、元気な人は座ってはいけないようです。満員電車でも、そこだけがガラガラな事もあるようです。
　でも、優先席でなければ席をゆずらなくても良いのでし

ょうか？それは駄目でしょう。オリンピックで日本人が行ったボランティアの高評価からも分かる日本人の気質、親切にして良いという周りからの了承がある状態では普通以上に親切に出来る日本人にとっては、たしかに優先席やマタニティマークのようにゆずるべき相手だと分かるのは、とても良い仕組みだと思います。しかし、仕組みだけに頼るのではなく、自分で
「ゆずるべき人だな」
と思ったのなら、勇気を出して席をゆずる事が一番大切だと思います。

　私もかなりの勇気を出さないと席をゆずる事が出来ません。でも、そうした自分の勇気を出して行った行動が相手にとって嫌な事になるとは思えません。なので、私もこれから立っているお年寄りや妊婦さんを見かけたら、勇気を出して席をゆずりたいと思います。

【中学生の部　佳作】

公平と優先席

東中学校２年　渡部　葵

先日利用した駅で、ふと気付いたことがある。ホームに、今までなかったホームドアが取りつけられていたのだ。体の不自由な人やお年寄りの人たちの転落を防ぐためだろう。他にも目を向けると、外国人向けの英語の表記やアナウンス、目の見えない人向けの点字など、駅や電車内は福祉が充実していることが分かる。

そして、私が前から気になっていたのが、「優先席」についてである。

妊婦、お年寄り、乳幼児を連れた方、病気を持っている方、怪我をされている方のための席、それが優先席。しかし、一見若くて健康そうな人がそこに座っているのもよく見る。

正直、最初は「なんでそこに座るんだろう。」と思う。だが、考えるうちに色々な可能性が見えてくる。例えば、

「目に見えないだけで、本当は怪我や病気を負った人なのではないか。」

とか、

「パッと見て『座るべき人』だと分かる人に譲るための席を確保しているのではないか。」

とか、

「そもそもここが優先席だと分かっていないのではないか。」

とか。もういっそ、優先席なんてなくて良いのでは、と思

ってしまう。

実際に優先席がなければ、そこで生まれるのは「平等」だ。年齢や障がいのある、なしに関わらず、座る権利は皆平等にある。だが、座れなかった「座席に座るべき人達」は、電車の揺れや乗客の乗り降りに苦しむことになるかもしれない。

反対に、優先席があることで生まれているのは「公平」だ。結局、マナーを守らない人がいれば「公平」にも「平等」にもならないが、少しでも、優先席があることで安心できる人がいるのではないかと思う。

重視すべきは「平等」か「公平」か、すぐに判断するのは難しい。だが、福祉的な観点から見たとき、私が選ぶのは「公平」である。なぜなら、私は、もとの立場の差があるのは仕方のないことだからこそ、配慮が必要な人に配慮をし、少しでも他の人との立場の差を小さくしていくのが、幸せにつながると考えるからだ。

今はまだそういうことができなくても、大人になったら、社会の公平化、そして多くの人の幸せのために行動してみたい。

【中学生の部　佳作】

身近な福祉

相模中学校１年　東　桃代

私は、福祉がとても身近に感じています。なぜなら、両親がどちらとも福祉に関係している仕事をしているからです。

まず、お父さんは知的に障がいがある人と一緒に、パソコンを解体して業者に販売する仕事をしています。なぜこのような仕事があるのかというと、障がい者の方たちは普通に働ける場がなく、それでも働けるためにこの仕事があります。パソコンを解体して販売することは、リサイクルにもつながるので一石二鳥です。

そして、お父さんにインタビューをしました。まず、子供あつかいをせず、成人した人として言葉づかいに気をつけているそうです。それから、障がい者の障がいを個性として、とらえ、その個性を大切にしているそうです。

そして、お母さんは介護の仕事をしています。おばあちゃんおじいちゃんをやさしく、けがのないように気をつけてお風呂に入れたり、ご飯をつくったりして、生活のお手伝いをしています。

お母さんにもインタビューしました。まず、おばちゃんおじいちゃんに対して介護を行う際、相手の立場となって考えて行動するように意識しているそうです。
そして、一人ひとりの個性を理解し、大切にし接っすることを大切にしているそうです。

私の祖母は、車いすの生活をしています。以前、祖母の

車いすを押す際に段差や速さに気をつけたりしてあまりしん動を与えないようにしていたので、相手の立場を考えて、行動することは大切なんだと思いました。

お母さんの職場にいるおばあちゃんおじいちゃんたちに友達と会いにいって、一緒に遊んだときがあります。折り紙を教わったり、昔の遊びをしたりして、とても元気で、すごいと思いました。

このような交流からお年寄りとの交流も、増えたと思います。

お父さんの職場にも行ったことがあります。行ったときは職場の人はいませんでしたが、パソコンを解体するのは難しく、これを覚えて作業しているのもすごいなと思いました。

私は、障がいを悪い事としてとらえず、その人なりの個性として思い続けようと思いました。

私は、福祉の仕事は思っていた以上に大変なことを知りました。色んなことを頭に入れながら仕事をし、介護も結構な体力を使います。

障がいがある人も一般の人と同じよな暮らしになっていけるようにしていきたいと思いました。そのために私は、自ら障がい者の人や高齢者と関わっていきたいと思います。個性というものを一番に大切にしていきたいです。

【中学生の部　佳作】

祖父と白杖

相模中学校Ｉ年　福田　優衣

私には目と耳の悪い祖父がいます。周囲の物などが見えづらく、歩くのが不自由なので私が一緒にいる時は転ばないよう手を支えるようにしています。階段は特に危ないので、私が祖父の手を取って手すりに持っていき安全に昇り降り出来るようにしています。

ある時、祖父が一人で外出していた時、工事中の道路の穴に落ちてしまい肩を骨折した事がありました。その時祖父は工事中の看板がよく見えていなかったようです。この事があってから、父が提案して祖父は白杖を持つようになりました。けがをする前は、どんなに白杖をすすめても「老人みたいだから嫌だ」と言って持ってくれませんでした。けがをした事は残念な出来事でしたが、祖父が白杖を持ってくれるようになったので私は少し安心しました。なぜなら外出する際に危険な物をよけ易く、また周囲の人に目が悪い事を気づいてもらえるからです。

私は白杖が目の悪い人が使う物だという事は知っていましたが、それ以上の事は知りませんでした。そこで、種類や特長について調べてみました。

白杖の一番の特長は色です。私達が知っている真っ白で光沢のある色は第一次世界大戦以後にイギリスのブリストルという写真家によって考え出されました。増加する交通量に歩行の不便さを感じていたブリストルは、杖を白く塗り周りからも見えやすくしたそうです。また、白杖の一部

に赤い印が付いている物もあります。これは車や周囲の人達に注意を促すために色を付けたと言われていて、日本の白杖に見られる特長です。

次に、白杖の主な種類についてです。

直杖…その名の通り連結部分のない杖です。よく町などで見かけるタイプがこれです。

折畳み式…部品を四つか五つに分けて小さく畳む事が出来るので外出時の持ち歩きに便利です。

IDケーン…周囲に視覚障害者である事を気づいてもらえるために特化して作られた物です。シンボルとして持ち歩くために作られたので素材も軽い物で出来ています。

スライド式…ラジオのアンテナのように各部分をずらして収納します。

支持ケーン…視覚障害と身体障害者の方が主に使います。体を支える事が目的となっているので一見松葉杖にも見えます。私の祖父が持っているのもこのタイプです。杖に赤い印が付いていなかったので黄色の反射テープを付けて使っています。

祖父は白杖を持つようになってから歩き易くなったようです。しかし、階段の昇り降りは白杖があっても大変な部分があります。段差が見えづらいので最後の段で転びそうになってしまうからです。だから私は「あと二段だよ。」や「そこの段差の幅は大きいよ。」などと声をかけています。近くにいる人が声をかけると目の悪い人でもより安全に過ごす事が出来ます。

将来的に白杖がどんどん機能的になったとしても周囲の人の声かけや気配りが大切だと思います。私は、白杖の人を見かけたら歩行のじゃまにならないように気をつけ、も

し困っている様子があれば積極的に声をかけるようにしたいです。

（参考）公益財団法人日本ケアフィット共有
機構　ホームページ
ウィキペディア　「白杖」ページ

福祉推進標語

【最優秀賞】

手を　どうぞ　この一言に　励まされ

入谷東在住　山下　孝雄

【優秀賞】

思いやり　心の壁を　超えていけ

東中学校３年　若林　知暉

ひと声かけて　寄り添えば　街のみんなが　見守り隊

新田宿在住　岩堀　多起子

【佳作】

手だすけは　人びとをむすぶ　小さなわ

座間小学校３年　亀井　寛太

寄り添って　気づけば広がる　笑顔の輪

西中学校１年　男庭　伶

「ありがとう」の一言　福祉の　第一歩

東原在住　青木　暁子

自分から　声かけ　ほほえみ　思いやり

緑ケ丘在住　宮﨑　加奈子

令和４年９月

座間市福祉部福祉長寿課　作成